

社団法人 飯塚青年会議所

VOICE



INDEX

| | |
|-------------|---------|
| 飯塚JC60年間の軌跡 | 1P~2P |
| 2013年度活動報告 | 3P~8P |
| 2014年度理事長所信 | 9P |
| 2014年度会員紹介 | 10P~13P |

 60th Anniversary IIZUKA JC

2013~2014 

IIZUKA
Junior Chamber International NEWS vol.59

社団法人 飯塚青年会議所

飯塚/JC60年間の軌跡

まちづくり

- 1953年 九州大水害の援助 ジャズ大会
- 1954年 炭鉱困窮者対策委員会設置
遊動円木を寄贈
- 1955年 オーションウェイブを寄贈
ニュースカー実施
児童図書寄贈・奨学金実施
- 1957年 「時の記念日」設置
- 1958年 「郷土の繁栄を語る」座談会
八木山にパーゴラ設置
- 1961年 黄色帽子の贈呈 ステッカーの配布
牛セメント像を寄贈
- 1962年 飯塚市庁舎建設討論会
「鈴のなる方を歩く運動」
街美化運動の提唱
- 1963年 公明選挙推進運動
- 1976年 市民憲章の調査研究と実行
ソウルアジアコンファレンスへ参加
- 1977年 呼び戻そう伝承の遊び
- 1978年 アジアコンファレンス参加
大阪・吉本土建物社長の吉本晴彦氏講演
呼び戻そう伝承の遊び
- 1979年 台東JCとの児童絵画交換会
「郷土資料館をつくろう」市策実現
- 1980年 都市機能や経済基盤について市民懇談会を開催
「日本の安全と防衛」と題しての市民集会の開催
都市問題委員会とともに活動
- 1981年 文化施設案内イラストマップ飯塚市役所
前へ寄贈設置
- 1982年 ふるさとづくり石炭缶詰企画販売
- 1983年 嘉飯山物産展・台東物産展開催
- 1984年 嘉麻の里ハッピーゲート大会
郷土読本製作
- 1985年 わかりやすい石炭六法発行 りんご村祭り
- 1986年 ふるさと講演会
- 1987年 りんご村祭り協力 学生お国自慢 ふれあい市場
地域活性化のため関係諸団体と討論会開催
- 1988年 遊ingマップ作成 りんご村花まつり
- 1989年 嘉麻の里調査研究および報告書作成
- 1990年 ファジイ国際学会
- 1991年 RKB毎日放送と合同で地域国際化
- 1992年 JR篠栗線電化複線化 討論会
21世紀への嘉麻の里のシナリオづくり
- 1993年 国際交流事業 スポーツ交流・ホームステイ
- 1994年 「かち歩き大会」
- 1995年 嘉麻の里 VaLueWaLK Festa
- 1996年 住民意識調査
- 1997年 広域化シンポジウム
- 1998年 2市8町青年部連絡会議 ファミリーフェスタ'98
- 1999年 商工会と合同勉強会 広域化推進看板設置
- 2000年 嘉麻の里 未来予想図1・未来予想図2
小学生による展示会
- 2001年 IT革命と我々のビジネス クリエイティブ事業
- 2002年 「好いちょ～嘉麻の里!まちづくり進歩ジウム」
中核都市を目指す 合併方針拡大



2008年 ボタ山トマト



2009年 ゴルフ～ジュニア選手権を飯塚の地で



2010年 ローカルマニフェスト大会



2011年 内野宿秋のさくらまつり



2012年 灯明



2008年 お米の日本一



2008年 飯塚菓子



2010年 シューボタ



2010年 飯づ嘉もんバーガー事業



2012年 子供アイデア料理コンテスト



2006年 大島サマーキャンプ



2004年 子供たちのハローワーク



2007年 バウンドテニス事業



2008年 わくわくスクール



2009年 ドミノでつくろう友達の和2



2009年 ドミノでつくろう友達の和1



2012年 飯ジョブ事業



2011年 いのちの事業

- 1954年 中学・高校弁論大会
写真展覧会
「良い子の月見会」開催
- 1955年 児童図書寄贈・奨学金実施
- 1956年 児童図書寄贈
第1回文化講演会
- 1960年 働く青少年を励ます会
- 1962年 「青少年の家」建設希望
梅原真隆先生の講演会
- 1963年 奨学生を囲む懇談会
- 1964年 青少年不良化防止運動
施設児を海水浴に招く
- 1968年 餅つきチャリティーポウリング
- 1969年 林覚雅先生講演会「現代青少年の映像」
- 1971年 日米チビッツピクニック大会
- 1972年 統一デー 若人の集い
- 1975年 AOYの推進、献血
- 1976年 母子なかよしソフトボール大会
- 1977年 伝承の遊び事業
- 1978年 片島小学校長を囲んで
青年マラソン大会参加
第1回まつりボタ山の参加
- 1979年 戦後20年から現在までの教育の資料収集と研究
青少年開発計画の推進
- 1980年 郷土読本の作成
- 1981年 青年駅伝大会
河端真一氏公演
- 1982年 母子なかよしソフトボール大会
野球教室開催
- 1984年 幼児教育セミナーの開催
- 1991年 親子で楽しむソリ大会の件
- 1997年 ジュニアスクール
第2回情報交換会
- 1998年 ファミリーフェスタ'98
- 1999年 瀧川崇太氏講演会
教育環境を考える事業
- 2000年 ジュニアスクール
- 2001年 親子ふれあいキャンプ
- 2002年 「大学へ行こうII」

2013年度活動報告



2013年度 山笠委員会

委員長 駒山 晃

振り返れば、基本方針を必死に考えていたのが昨日のことに思い出されます。私は入会して日が浅く、不安だらけのスタートでした。しかし、新春祝賀会を担当しており、不安を感じ続ける暇もないうちに事業計画の作成、理事会と、初めての経験をさせていただきました。大勢の前で意見を述べるのが苦手な私にとって、初めは緊張ばかりでしたが、これも修練だと取り組んでいく内に答弁も出来るようになり、今後の私の人生にとって素晴らしい糧になったのではないかと感じております。

また、飯塚山笠振興会に書記長として出向させて頂き、山笠の運営のお手伝いをさせて頂いたことで、山笠がどのように運営されているかを勉強させて頂く事が出来ました。11月に行われた飯塚山笠振興会の理事会及び総会が無事に終わった時には何とも言えない充実感がありました。

さらに、当委員会で担当しました「灯明事業」では、集客面の事を考え、他事業との同時開催を企画しておりましたが、雨天により「灯明事業」のみが順延となってしまいました。予備日の開催となり、一年間かけて思い描いたものを具現化することが出来ず痛恨の極みではありましたが、ご来場いただいた方々が喜んでる姿を見て心が救われました。

本年度は委員長として自分が出来ることを精一杯やり遂げて、うまくいった事、いかなかった事、色んな事がありました。一年間頼りない委員長に付いてきてくれた山笠委員会のみなさん、本当にありがとうございました。

3





2013年度 総務委員会

委員長 木下 太

本年度、総務委員会では5回の総会運営、創立60周年記念誌の発行そして5年前に施行された一般社団・財団法人の設立に伴い、定款及び運営規定の見直しを行ってきました。

その中で新たに改訂された定款を再度総会にて決議し、11月の審査会において見事に通過、晴れて次年度より「一般社団法人 飯塚青年会議所」がスタートします。

また、定款の変更に伴い次年度以降の青年会議所運動を円滑にする為に十数年ぶりに「運営規定」の見直しも行いました。

そして当会議所の創立60周年の創立記念日に合わせて、23名の台東国際商会のメンバーが来訪され、飯塚の魅力を中心に「お・も・て・な・し」の心でアテンドをさせていただきました。さらには「台東国際青年商会、(社)飯塚青年会議所、姉妹提携調印式」において姉妹JC締結書への署名押印が完了しお互いのさらなる友好関係を深めることが出来ました。

創立60周年記念事業として「創立60周年記念誌～原点帰帰～」の作成を行いました。今まで飯塚青年会議所が行ってきた活動を掲載することで、今までご協力いただいた各団体の方に今後も変わらぬ協力関係をお願いすると共に、従来の記念誌とは違い、現役メンバーに関しては過去10年分の議案データが閲覧できるCD-ROMも添付することで、今後のJC運動においての一助となる為のツールとして活用していただけるよう作成しました。

最後に私自身、多くの場面において力不足であるにも関わらず、穂坂副委員長を初め、今年1年間、委員会活動にご尽力いただいた委員会メンバーの皆様本当にありがとうございました。



2013年度 例会委員会

委員長 坂口 天志

私は、今年度例会委員長として共有をテーマに歩んでまいりました。式典の報告事項の手法の見直しを行い、例会に参加したメンバーに情報の発信を行ってまいりました。

アワーに関してもメンバーが参加したくなるように企画・運営してまいりました。様々なアワーを企画し実行に移していくまでのあいだには、挫折しそうになったりしたこともありましたが、そんなときは委員会メンバーの助けで挫折することなく実行していくことができました。

また、当委員会のもうひとつの担いであった創立60周年記念基調講演におきましても60周年特別室とともに企画立案し、実行に移していく過程で通常の例会運営とは異なる新たな気付きを得ることができました。

一年間を通して本当にメンバーのためになったのか、新たな気付きを提供することができたのか確信はありませんが、月に一度メンバーが一堂に会し懇親・交流を深める場を提供することは出来たのではないかと思います。

最後に、創立60周年の委員長として貴重な経験をさせていただいたこと、また頼りない私を一年間支えてくれた委員会メンバーに心より感謝致します。本当にありがとうございました。





2013年度 地域の宝開発委員会

委員長 片平 秀一

私は、本年度一年間ひとづくり事業や創立60周年記念祝賀会の開催そして忘年会を担当させていただき委員長だからこそ得られた経験や、その経験から多くを学ぶことができる充実した日々を過ごすことができました。

ひとづくり事業では「ありがとう」と素直な気持ちで言える人材育成を目的とした市民参加型音楽演劇を開催し、演劇へ全力で取り組む子ども達の姿勢や発表公演を終えた時の子ども達や協力していただいた大人達の笑顔は、委員会メンバー全員の宝となりました。

創立60周年記念祝賀会では、これまで協力していただいた行政や団体へ感謝をお伝えながら今後の連携強化を考え式典や懇親会を開催しました。そして忘年会では多くのメンバーに参加していただき創立60周年の節目の年をしめくりながら、卒業生を無事に送り出すことができました。

最後に、このような貴重な経験を高橋副委員長はじめとする委員会メンバー皆様から頂いたことを本当に感謝しています。一年間本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。



2013年度 魅力・活力開発委員会

委員長 麻生 将豊

本年、社団法人飯塚青年会議所は(以下、飯塚JC)60周年を迎えました。60周年を迎えた飯塚JCの理事メンバーとして、真剣に、そして、必死にJC運動に邁進した1年でした。

また、当委員会は、委員会事業を実施するだけでなく、60周年記念事業も担当させて頂いたことで、通常よりも充実した1年を過ごすことが出来たと思っています。

60周年記念事業は5つの事業を同時開催するような形を取りましたが、参加頂いたLOMメンバーの協力のもとに、やり遂げることが出来ました。そして、委員会事業ではお招きした講師のご協力のもとに、嘉穂劇場の魅力伝えるという目的を達成することが出来たと思っています。

これは、当委員会のメンバーだけではなく、LOMメンバー全員の協力があってこそだと感じ、改めて飯塚JCの結束力の強さを感じる事が出来た1年でした。





2013年度 組織力向上委員会

委員長 狩野 喜彰

本年度、私達は委員会名である「組織力の向上」をテーマとし、まずは新入会員の増強、そして、新入会員の育成に邁進させて頂きました。その結果、17名の新入会員と出会い、創立60周年事業や様々な事業を共に活動する事が出来た一方、新入会員の育成には至らず、改めて青年会議所の有るべき姿を感じさせて頂く事が出来ました。それは、メンバー同士が個々の能力を認め合い、得手不得手を理解した上での役割分担。更にその不得手な事を行う姿に影響を受け学び合う向上心や助け合いです。それらを持ち揃えたメンバーのお陰で、私達の担当する創立60周年創立記念や新入会員主体事業「皆で知ろう！地域の宝」戦国歴史フェスティバルでは、様々な課題は出たものの成功に納めることが出来ました。本当に、ありがとうございます。そして、お疲れ様でした。また、新入会員にアドバイスを含めサポートして頂いた現役メンバーの皆さん、本当にありがとうございました。

最後に、組織力とは一人ひとりの力の集体制であり、その力を持ってすれば何事にも臨める事を改めて実感する事が出来た一年でした。今後もこの気持ちを忘れること無く様々な分野に活かしていこうと思います。このきっかけを作って頂いた方々を含める皆さん、本当にありがとうございました。



2013年度 広報渉外委員会

委員長 山喜多 洋志

広報渉外委員会の委員長として常に心がけていたことは迅速かつ正確な情報をどのようにすれば多くの人々に発信し、より効率的に共有することができるかということでした。

当初はホームページの活用方法を見直し、より多くの方々に閲覧して頂くかを考える日々でした。しかし議論を重ねたどり着いた答えは「人と人との触れ合いを通じて広報活動を行っていく」という原始的なものだったのです。事業として掲げた「FACE TO FACE」創立60周年事業の広報活動及び他の委員会事業の支えとなるべく、当委員会では人と人との触れ合いを通じての広報活動に取り組んで行くこととなりました。顔と顔を合わせる広報活動にご協力頂いた方々からは社団法人飯塚青年会議所に対する様々な疑問・質問また期待の声を聞くことができました。多くの人々に情報を提供し、いかに興味をもって頂けるかを委員会メンバーと共に考え学んだ一年間。情報はただ発信・享受する為だけのものではなく、ふれあいの中から生まれてくるものだと思えて感じました。

創立60年目の節目の年に委員長経験をさせて頂いたこと、そして最後まで共に頑張ってくれた委員会メンバーに心から感謝致します。



創立60周年記念事業



2013年度

60周年特別室

室長 山室 透

社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JC)が創立60周年を迎えるあたり、全ての周年事業の統括及び運営の重役を拝命し、約1年半という期間を奔走してきました。その中で、これまで飯塚JCの60年間に、ご支援・ご協力をいただいた多くの方々に感謝をしながら、今後の愛する故郷の発展のために、多くの方々と連携の構築ができる事業を目指して事業を実施してきました。そして同時に、メンバー一人ひとりが、なぜJC運動をしているのか真摯に考え、各自が一步前に前進することで成長し、飯塚JCが大きく飛躍できる一年を目指して様々な取組みを実施してきました。

その中で、目的の違う6つの事業を行い、担当委員会にて事業立案・運営を行うことで、メンバー全員が一つになり取り組むことのできる内容になると信じて邁進してきました。その結果、多くの地域の方々に、事業に来ていただいたことや、これまで我々にご協力いただきました各方面の皆様へ直接感謝を伝えられたことは、今後の飯塚JCにとって非常に良かったと思います。私達特別室の不甲斐ない点も有り、周年事業を実行した委員長の皆様をはじめ、メンバーの方々には多々ご迷惑をかけたことは多いに反省しております。目指してきたことが全て達成できたとは言えませんが、この60周年事業を通して私も含めた各委員長は大変貴重な経験を得て、全員が1年前よりも成長すること出来たと確信しています。この経験を無駄にすることなく、来年61年目の更なる飛躍に繋げていくために、これからの飯塚JCを担っていく若いメンバーに必ず伝えていきます。

そして、我々の趣旨をご理解いただき、様々なご協力をいただきました地域の皆様、そして何より60年の永きにわたり愛する故郷のために、飯塚JCの歴史を紡いでこられた諸先輩方に深く感謝申し上げます。最後になりますが私に付いて来ていただき、貴重な経験と大きな気付きを与えてくれた、各委員長・全てのメンバーに感謝申し上げます。





2013年度 第60代理事長 藤木 秀 憲

私たち社団法人飯塚青年会議所は皆様のお陰を持ちまして60周年を迎え、本年度皆様のご理解ご協力のもとに各周年事業を終えることができました。地域の皆様の温かいご理解ご支援に対し、心より御礼申し上げます。この周年の年に理事長という職務をさせていただき私なりに感じたことは、やはり私たち青年会議所は、地域の方々に生かされているということです。地域の方々と共にふるさとの明るい未来を語り合い、活動していく。まさに私たちの原点を身を持って体験させていただいた年となりました。来年度は61年目という新たな一歩を踏み出します。この周年の年を期に、私たちの更なる精進をお誓いし、引き続き皆様のご指導ご鞭撻賜りますようお願い致しまして、私からのご挨拶とさせていただきます。



2014年度理事長スローガン

「共感」 関わり合い、共に歩む



社団法人飯塚青年会議所
第61代理事長

新川 修

はじめに

本年度、私たち社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JC)は創立61年目を迎えます。

昨年は創立60年という節目において、原点回帰のスローガンの下、半世紀を超える先輩方の足跡を振り返り、自分たちの地域をよりよくしたい、という設立当初からの変わらぬ想いを改めて強く感じました。この想いを引継ぎ、次の時代へ繋げていくために、もう一度私たちの理想の実現に向けた方向性を確認し、議論を尽くして互いへの理解と共感を深め、飯塚JCのこれからに向けてさらなる結束を強めていきたいと考えます。

理想の実現に近づくことや地域をよりよくしていくことは簡単なことではありません。何かをすればすぐに結果がでるものではありません。結果を求める前に、まず自分や地域にとっての青年会議所とは何かを自問自答し、信念を持って積極的に行動できる自分に変わることが必要です。人や地域に求める前に、まず地域の一員でもある自ら変わり行動すること、それこそが自分や地域に関わる人々の共感を生み、飯塚JCも含めた地域より良い変化へつながるものだと信じて、61年目の一步を踏み出してまいります。

自己変革の場としてのJC

私は青年会議所に入会するまで、地域のことについて思いを巡らせることはなく、ただ自分と自分の仕事のことだけを考えていました。そんな私でもメンバーと議論を重ねることで、また先輩方や地域の方々との出会いや経験によって、自分のためだけに活動していた私の未熟さに気づかされ、仲間と共に歩む素晴らしさと楽しさを学びました。

青年会議所の財産はメンバーそのものであり、各自の個性こそがメンバーにとっての宝であります。それらを自分たちのために、地域のために活かすための仕組みが青年会議所にはあります。「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」という言葉があります。まさに青年会議所にはこの言葉が実践できる環境と機会があり、このことは青年会議所での活動を通して確実に学ぶことができます。これは仕事においても日々の生活においても活かすことができるものです。大切なことは、傍観者にならないこと。同じ場所、同じ時代に生きる人々と積極的に関わり、互いにかげがえのない仲間になること。それは同時に地域社会のかけがえのない一員になることであり、そこではじめて地域のために何かができるようになると考えます。

これからの飯塚JCを創るための会員拡大

本年度飯塚JCは96名のメンバーとともに活動を始めます、しかし青年会議所は定年制である為、40歳で卒業を迎えます。特に本年度以降は多くのメンバーが飯塚JCを卒業する予定であり、このままでは飯塚JCの人数は大きく減少することになります。

まちの活気が数多くの人々との関わり合いで作り出されると考えるならば、青年会議所における会員拡大は運動の活性化を支える根幹であり、最も重要な課題の一つであります。この会員拡大を青年会議所最大の継続事業、そして全体事業として捉えて活動を推進し、飯塚JCのこれからを創るために一人でも多くの仲間を増やし、今まで以上に地域に必要とされる人間の集まる団体を目指して活動を展開いたします。

関わりが作るまちをめざして

私たち青年会議所が理想として掲げる「明るい豊かな社会の実現」、私たちにとっての明るい豊かな「まち」の実現に近づくためには、まちに暮らす私たちを含めた人々と、地域行政とが今まで以上に積極的に関わり合うことが大切であると考えます。

地方分権や地方の自主自立、少子高齢化などという言葉が増えてきている中、地域行政からは、よりよいまち作りを目指して私たち市民に対して様々な呼びかけがなされています。それに対して私たちも今まで以上に自分たちのまちの在り方に関心を持たなければなりません。以上を含めた市民と地域行政がいきいきと関わり合い、互いに関心を持って自分たちのまちをつくることに人々の「明るい豊かな社会」が生まれると思います。私たち青年が先頭立って、市民と地域行政から互いに関心を引き出し、共にまちづくりを進んでいく機会を作っていくためにも、今まで以上に地域行政との連携を密にして、市民が積極的に地域行政や社会に関わっていただけるような活動を展開していきます。

世代を超えて関わる

私たちの地域のこれからを考えるとき、忘れてはいけないのが少子高齢化といわれる世代構成の変化があります。私たちの国は、来年には、団塊の世代が高齢期を迎え、人口の4分の1が高齢者という超高齢社会を迎えるといわれています。これは私たちの住む地域においても例外ではありません。

ん。この地域でも2年後には高齢者比率が国全体の平均を上回る30%に迫り、年少人口比率も下がり続けると予想されています。また、この少子高齢化は今現在、様々な問題を生み出つつあります。年金や福祉、それに関わる財政の問題、そして世代間格差などと呼ばれる問題も生じつつあります。

このような時代だからこそ、各世代がそれぞれの考えや利益を主張しあうのではなく、互いに関心を持ち、理解と共感を深めることが大切であり、それこそがこれらの問題を正しく受け止め、判断していくために欠かせない事であると考えます。

それぞれの世代が他の世代に関心を持たないまま明るい豊かな社会が実現できるとは思えません。子どもを育てるようになって初めて理解する親の気持ちがあるように、その世代にならないとわからないこともあるでしょう。しかし誰も経験したことのない速さで進む少子高齢化という時代の中では、それぞれの世代がふれあい、関わり合う機会が今まで以上に必要になってくると考えます。

現役世代や高齢世代などというものに囚われることなく、互いにこの地域に生きるものとして、どうすれば明るく豊かな地域になるのかを共に考えて、共に行動する機会が必要です。そのためにも、世代や立場に関わらず、意識の差や考え方の相違を相手への理解と共感をもって埋めていくような、複数世代の共同参画型社会に向けた意識変革を目指して活動していきます。

青年会議所として関わる

子どもからお年寄りまでと一緒に過ごす、他のまちの人々が関心に向けて、様々な人たちが私たちのまちを歩き交う、そんな光景を想像すると、まちを明るくするのはやはり人だと思わずにはいられません。

飯塚JCが誕生して60年が経ち、今では私たちのまちには各種団体が活発に活動を行っており、所謂「まちおこし」としての祭りやイベントが年間を通じて行われています。そのような環境で私たちは他の団体ではなく青年会議所として活動することの意味をもう一度見つめ直していく必要があります。

祭りなどのイベントを決してその瞬間だけのものとすべきではありません。それらは地域活性化としての役割以外にも、市民主体の運営、複数世代の地域社会に対する共同参画への機会提供という役割も持っています。子どもから、シニア世代まで、一緒に時間を過ごして一つの事業や祭りを作り上げていく過程は、まさに各世代の意識や考え方を理解できる貴重な場となっており、それらに関わることによってコミュニティの活性化と地域への関心を高めることができていると思います。子どもが減り高齢者が増えていく中、私たち現役世代も含めて世代に関わらず、自分たちのまちに関心を持ち行動していくような意識の変革を作り出していくためにも、祭りやイベントという事業に青年会議所として関わる意味を考えながら、全ての世代が地域社会へ関わることのできる機会を創り出していきたいと考えます。

おわりに

青年会議所の崇高な理念と高い目的意識、それは何のため、誰のためでしょうか。

「どこに行こうとしているのかわかっていなければ、どの道を通ってもどこにもいけない」という言葉があります。青年会議所が掲げる言葉の数々は私たちの行こうとしているところを指し示しています。「明るい豊かな社会」という所に向かって、20代から30代のまだ未熟なも同士の、意識を高めるために日々議論を交わし切磋琢磨する、ときには自分を否定されたり、大きなプレッシャーに掛けそうになりながら仲間との絆を強めていく、その過程では様々な負担や犠牲を強いられることもあるでしょう。それでも自分自身に向き合い、何のため、誰のたを自問自答していく場であるからこそ、確固たる信念を持つ自分に出会うことができると考えます。

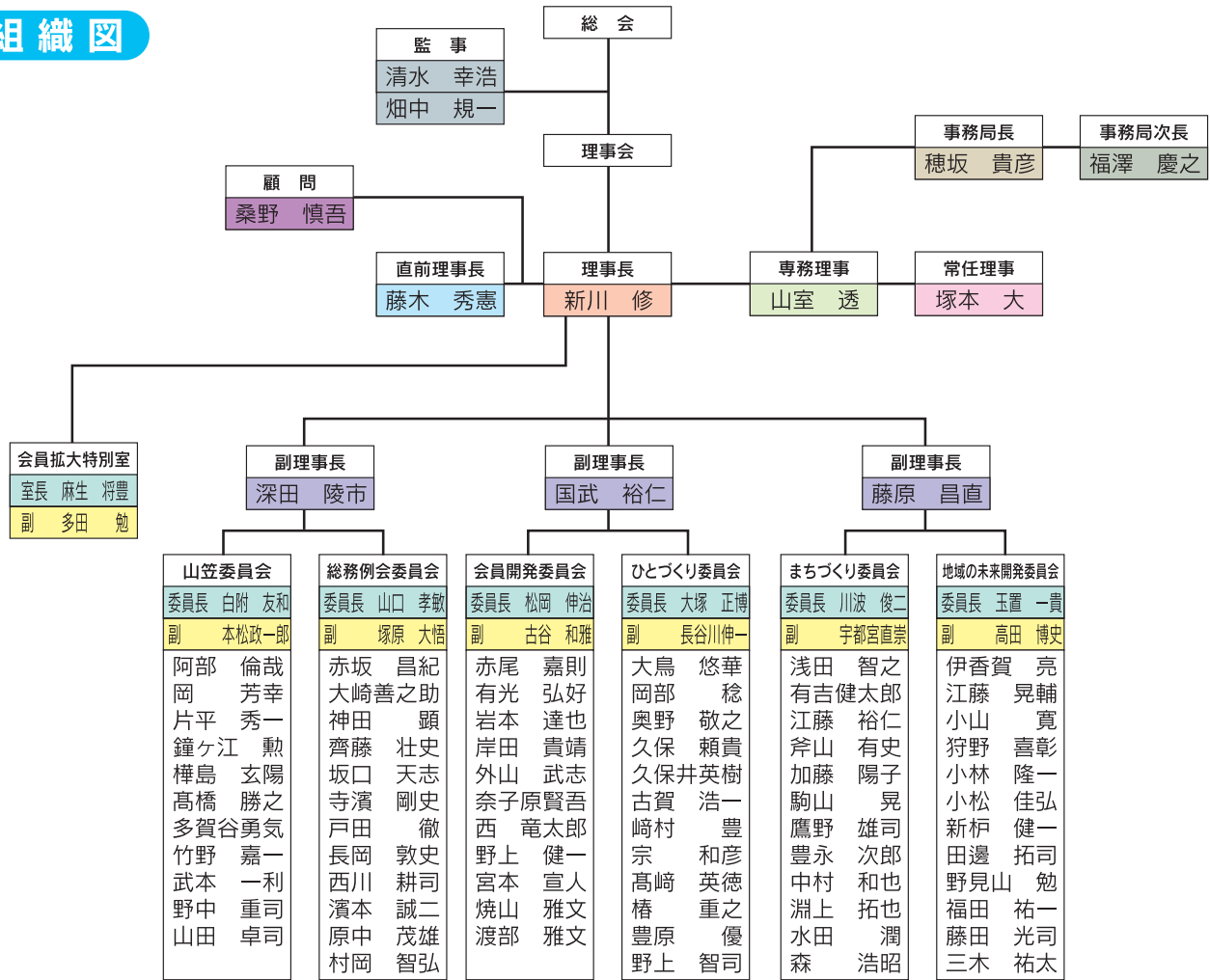
傍観者ではなく、自ら積極的に行動する実践者として、投げられた小さな石が水面に大きな波紋を広げるように、私たちは社会に投げられた石であり、波紋は共感を求めて地域社会に伝わる意識変革へのメッセージとなるように、常に実践していく者として、一年間邁進してまいります。

基本方針

- ・一般社団法人格取得元年としての取組み
- ・これからの飯塚JCを創るための会員拡大
- ・会員の意識向上を主眼とした例会運営
- ・会員相互の理解と共感を深め、組織活性化を図る取組み
- ・世代を超えた相互理解と各世代が共同で取り組む社会参画事業
- ・行政との連携を主眼とするまちづくり
- ・市民と地域社会とが積極的に関わり合うまちづくり
- ・市民祭飯塚山笠の発展に資する取組み
- ・飯塚JCの認知拡大および事業特性に適した各種広報活動

JCI 2014年度 会員紹介

組織図



| | | | | |
|--|--|--|---|---|
|  理事長 新川 修 新川工業(株) |  直前理事長 藤木 秀憲 フジキ印刷(株) |  顧問 桑野 慎吾 (有)桑野電気工事 |  副理事長 深田 陵市 (有)南星観光 |  副理事長 国武 裕仁 (有)システムハウジングタイセイ |
|  副理事長 藤原 昌直 (有)嘉穂園芸 |  専務理事 山室 透 親和塗料 |  常任理事 塚本 大 (株)中央産業 |  事務局長 穂坂 貴彦 農事組合法人 穂坂牧場 |  事務局次長 福澤 慶之 上嘉穂貨物自動車運送(株) |
|  監事 清水 幸浩 (株)端建工務店 |  監事 畑中 規一 (有)荒木食品産業 | | | |

会員拡大特別室

室長


麻生 将豊
トヨタ自動車九州(株)

副室長


多田 勉
(株)多田組

社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JC)は現在約90名のメンバーが、「明るい豊かな社会」を築くため、一生懸命に飯塚JCでの活動を行っています。しかしながら、飯塚JCを継続させ、さらに発展させるためには、自分の行動に責任を持ち、確かな目的を持って行動する仲間が1人でも多いことが必要と考えます。そして、その仲間が飯塚JCで一生懸命活動を行ってもらうことが、「明るい豊かな社会」を築き地域を発展させることができると、私は信じます。

そこで本年度、会員拡大特別室では、今後の飯塚JCの発展のために、1人でも多くの仲間を増やし、例会や総会の重要性を理解させ、本年度の各委員会の取り組みに率先して参加するようにアカデミーメンバーを育成します。

また、灯明事業は本年をもって12回を迎えます。11年の歴史の中で地域の大勢の方々とかかわりを持ってま

いました。そこで灯明事業を通じて、飯塚JCが地域とのかかわりをどのように考えてきたかを知ってもらい、地域の方々のために灯明事業をどう行うべきかを議論し、事業が出来るまでの過程を理解してもらいます。さらに、自分たちの考えた事業目的が地域の方々に伝わる喜びを感じ取ってもらい、アカデミーメンバーに地域のことを真剣に考えることの重要性を理解させます。

1年間を通して当室では、飯塚JCの活動に率先して取り組み、大勢の人と関わることを通じて、「アカデミーメンバー一人ひとりが、JC運動に共感でき、「明るい豊かな社会」を築こうという志を持てるように室の運営を行ってまいります。

山笠委員会

委員長

白附友和
 佐藤測量設計(株)

副委員長 **NEW**

本松政一郎
 社会福祉法人 葛藤福祉会 三愛園

本年度、「市民祭飯塚山笠」は44年目を迎えます。
 44年前、地域の活性、明るい豊かな社会の実現を目指し我々の先輩方が御尽力され、昭和46年7月11日に飯塚山笠が復活し、現在では飯塚にはなくてはならない夏の風物詩となっております。

飯塚山笠は子どもから大人まで幅広い世代が山笠について語り、ひととひとがふれあひながら一体となって楽しむ事の出来る活気ある祭りであるとともに、その活気がまちの魅力の一つになっていると確信します。

魅力ある飯塚山笠をより一層繁栄させるために飯塚山笠振興会に出向し、お互いの親睦を深め、意見を交わし、積極的に取り組む姿勢で「市民祭飯塚山笠」の運営への参画に努めてまいります。

また、飯塚山笠振興会への出向にとどまらず、未だ飯塚山笠に興味・関心を持たれていない二市一町の方々に知って頂くための広報活動を行います。その中で、飯塚山笠の魅力を感じてもらい、追い山当日には多数の

観客動員を図り、現在飯塚山笠に携わっておられる方々にも満足度が増すような事業を考え展開してまいります。

我々のもう一つの担いでありますVOICEの発刊におきましては、社団法人飯塚青年会議所の活動及び理念を共感して頂けるような広報誌の作成に努めます。

最後に、本年度山笠委員会は委員会メンバーそれぞれが目的意識をしっかりと持ち、目標に向かって邁進してまいります。

NEW

阿部倫哉
 株式会社AL-WORKS COMPANY


岡 芳幸
 山笠管建工


片平秀一
 ㈱三豊


樺島玄陽
 龍王ガス(株)


鐘ヶ江 勲
 飯塚信用金庫


高橋勝之
 くるみ電工


多賀谷勇氣
 ㈱イオス


竹野嘉一
 飯塚信用金庫 庄内支店


武本一利
 ㈱C.F.C.company


野中重司
 光代自動車整備工場


山田卓司
 ㈱山田建巧

総務例会委員会

委員長

山口孝敏
 写真の和光

副委員長

塚原大悟
 ㈱めがねのツカハラ

我々の理想である「明るい豊かな社会」の実現には、メンバーの高い意識と強固な結束がなくては成し得ることはできません。

高い意識とは、ただ受動的に参加するのではなく、能動的に自分の能力を高めようとする事だと考えます。青年会議所運動(以下、JC運動)を通じて、メンバー同士が自分の考えを自由に語り合い、真剣に考え合うことは、互いの理解をより深めることができ、またそれを積み重ねることで揺るぎない信頼関係が築いていけるものだと信じています。さらに、この連鎖がいつしか強固な結束力となり、我々の掲げる理想の実現へと繋がっていくと確信します。

本年度の例会は、メンバーの「意識向上」をテーマに1年間取り組んでいきます。

運営にあたっては、事前の準備を入念におこない、JCの一員としての意識統一と確認の場となる厳粛な式典、そしてメンバーに有意義な時間を過ごしていただ

るアワーの企画・運営を行ってまいります。

総務の担いについては、一般社団法人格取得元年として、定款並びに運営規定の変更点をしっかり確認をしつつ、総会の運営・管理、総務諸業務に取り組み、スムーズな運営を常に心がけ、厳正かつ確実に実施します。

今年16名の卒業生を送り出す忘年会の担いについては、これまで卒業生が取り組んでこられたJC運動に感謝の気持ちと敬意を払い、いつまでも卒業生の心に残るような忘年会をおこなうと共に、現役メンバーは、卒業生のJAYCEEとしての熱い想いを受け継ぎ、自覚と情熱をもって今後の運動に活かしていただけるような企画・運営を行ってまいります。


赤坂昌紀
 ㈱緑親園

NEW

大崎善之助
 ひまわり不動産サービスセンター



神田 顕
 ㈱南風堂


齊藤壮史
 斉藤造園


坂口天志
 ㈱飯塚電設


寺濱剛史
 ㈱エス・シー・エム


戸田 徹
 カ-コンビニ建設部 ソロ川津店


長岡敦史
 ㈱ジェイ・イー


西川耕司
 西川歯科医院


濱本誠二
 福豊帝酸(株)


原中茂雄
 KRC桂川


村岡智弘
 ㈱村岡食品

会員開発委員会



委員長

松岡 伸治

㈱デンシン

副委員長



古谷 和雅

㈱古谷金物店

社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JC)の財産は様々な個性を持つメンバーです。それらを自分のため、地域のために活かす仕組みが青年会議所にはあります。

しかしその仕組みを私たちは本当に活かせているでしょうか。委員会や例会、事業において、メンバーの出席率は近年伸び悩んでいるように感じます。これは私たちメンバーの関わり合いが減少していることが一因であると考えます。まずはJC運動に積極的に参加しなければ、せっかくの個性や仕組みも活かすことができません。同じ時代に生きる人と積極的に関わり合い、かけがえのない仲間になることが、自分自身の成長と、自己変革の場としてのJCを高めるものであり、そしてこの地域の人々の共感を得ていくために必要不可欠であると確信します。

昨今の不景気やめまぐるしく変化していく時代のなかで、企業は生き残りをかけて努力を続けています。それは私たちメンバーの企業も同じだと考えます。そのような環境下においては、JC運動に積極的に関われない、も

しくは気持ちにゆとりがなくなりJC運動に消極的になるメンバーもいるのではないのでしょうか。

そこで当委員会では、仲間と共に歩む素晴らしさと楽しさを経験できる場を作ります。互いを尊重し助け合い、議論を交わし切磋琢磨しながら仲間との絆を強めていく、これこそがメンバー同士の関わり合いだと考えます。飯塚JCの財産であるメンバーに、一人でも多く当委員会事業に参加して頂くことで、もっと来なくなる、もっと関わりたくなる、そして同じ青年経済人として、共感をもって話せる仲間がいる飯塚JCを目指して事業を展開していきます。委員会の垣根を越えてお互いが関わり合い、助け合うことで、信念を持って積極的に行動できる人財が育ち、今よりも更に強固な信頼関係で結ばれた飯塚JCになると確信しております。

また、当委員会のもう一つの担いであります創立記念では、昨年60周年で大変お世話になった、先輩方への感謝の場と、新しく始まった61年目を全員でお祝いし、心新たに70年目に向けて邁進していけるよう、企画・運営していきます。



赤尾 嘉側

㈱赤尾組



有光 弘好

皇祖神社



岩本 達也

㈱イワキン工業



岸田 貴靖

三協技建㈱



外山 武志

㈱KMG



奈子原 賢吾

奈子原建設

NEW



西 竜太郎

㈱西組



野上 健一

DEEP



宮本 宣人

宮本急送㈱

NEW



焼山 雅文

㈱ポディショップショー

NEW



渡部 雅文

居酒屋「KOKORO」



ひとづくり委員会



委員長

大塚 正博

㈱三信ビル管理

副委員長



長谷川 伸一

㈱ワーキングハセカワ

私たちが生きる現代社会は、インターネットの普及により、物や情報が簡単に手に入られます。また、スマートフォンやSNSの普及により、コミュニケーションが簡素化され、とても便利な時代になりました。しかし、その分、ひとつひとつに関わり合いをもつ機会が少なくなっています。

私たちの祖父母が子どもだった時代には、物や情報が少なかったからこそ、近所の人と手をとって、関わり合いながら、戦後の困難な時代を生き抜いてきたように思います。そして、その関わり合いの中で「互いを思いやる気持ち」を育んできたのではないのでしょうか。

これから超高齢化社会の波は、誰もが経験したことが無いスピードで押し寄せ、現役世代が高齢者を支える時代となるなど、新たな問題も生み出すのではないかと危惧します。このような時だからこそ、失われつつある「互いを思いやる気持ち」は、世代に関わらずこれからの時代を共に生き抜く上で大切なのではないのでしょうか。

そこで当委員会では、複数の世代が関わり合う機会を今まで以上に促進させ、「忘己利他」という言葉があるように「自分のことを忘れて他人のために尽くす」気持ちを持った関わり合いの質を高めることが「明るい豊かな社会」を築くと確信し一年間邁進してまいります。



大鳥 悠華

㈱グリーンアース

NEW



岡部 稔

㈱初音



奥野 敬之

㈱カイト



久保 頼貴

久保自動車㈱



久保井 英樹

㈱クボイ



古賀 浩一

㈱セントコーポレーション



崎村 豊

㈱崎村組



宗 和彦

やしま整骨院



高崎 英徳

㈱高崎クレーン



樫 重之

㈱中本不動産



豊原 優

あおい合同土地家屋調査士事務所

NEW



野上 智司

㈱のがみ組

まちづくり委員会



委員長

川波 俊二
㈱トラベルウイズ



副委員長

宇都宮直崇
襷相八幡宮

青年会議所の理想に「明るい豊かな社会」の実現があります。社団法人飯塚青年会議所(以下、飯塚JC)に入会し様々な活動に参加してこのまちのことや、その理想について真剣に考えるようになりました。そして志が同じ人たちと議論し、高齢化、過疎化、他人への無関心などを考え、またそれらが懸念されるこのまちを想うとき、「明るい豊かな社会」の実現のために微力でも飯塚JCとして私たちにもできることがあると思うようになりました。

ひとが故郷のまちを想うとき、幼少より見た風景、そのまちのにおい、ふれあった人々、祭りなどの思い出に強く心をひかれ想いを寄せます。それぞれが想いを寄せる思い出は違っても、故郷のまちを大切にしたいという気持ちはみんな同じです。

そして、飯塚JCはその気持ちを誰よりも理解し、人々の故郷を大切にしたいという想いをより形にでき、積極的に関わる事の出来る数少ない団体です。

私たち、まちづくり委員会では全ての世代が関わることができ、その次の世代にも永く人々に想われる新しい

共通の思い出を創ることが「明るい豊かなまちづくり」であると考えます。

その第一歩として、まちの人々の心に残る風景や祭りなどと同じく、自然に故郷のまちを思い出すことができ、子どもからお年寄り、男女問わず、すべての人が楽しみながらひとひとのふれあいや関わりを持つ事業を企画、運営いたします。

私たちが、本気でこのまちを想う気持ちは必ず人々の心が届き、心に届いた想いはさらに人々の心を動かし、感動が生まれ、感動はまちを明るくし、人を思いやる気持ちとまちに元気を与えるものと信じ、一年間委員会メンバーとともに邁進していきます。

また、当委員会では新春祝賀会を企画、運営致します。61年目の第一歩としての方向性とメンバーの団結を示す厳粛な式典運営を行い、昨年は創立60周年の記念事業、式典等に何度も足を運んでいただいた各団体や諸先輩方、関係機関の方々へ御礼の意味も踏まえ、式典から懇親会とおもてなしの心を前面に出し行います。



浅田 智之
ダイワ印刷㈱



有吉健太郎
㈱筑豊調味



江藤裕仁
㈱トーン



斧山 有史
ほなみ幼稚園



加藤 陽子
㈱福岡カホスインギングスクール



駒山 晃
㈱綿忽



鷹野雄司
タカノ歯科医院



豊永次郎
飯塚病院



中村和也
福岡クリエイション開発㈱



淵上拓也
バームハウス



水田 潤
茜ゴルフクラブ



森 浩昭
㈱玉置



地域の未来開発委員会



委員長

玉置 一貴
㈱玉置



副委員長

高田博史
㈱高田工業所

近年、私たちが暮らすこの地域では、様々な団体や地域行政による多くのイベントや事業が開催されています。その多くは、この地域の現状をより良くしたい、この地域の未来をより良くしたいという想いで開催され、大勢の地域住民の方々が参加しています。しかし、それらのイベントや事業は、この地域のまちづくりに本当に繋がっているのでしょうか。

私が考えるまちづくりとは、この地域に関わる多様な立場の人々が、協動的、継続的な活動を通して、ゆたかな暮らしを創造していくことです。つまり、地域行政、企業、住民の異なる立場の人々が、互に関わり合い、互いの考えに関心を持ち、情報を共有しながら、まちづくりを行うことが必要です。

私たち、社団法人飯塚青年会議所メンバーは、この地域に生きる住民であると同時に、一人の青年経済人です。私たちに求められることは、青年経済人である私たちが地域行政や住民の方々との連携を密にし、協動的、継続的な活動が行われるための信頼関係を、事業

を通して構築することだと考えます。

本年、当委員会では地域行政と住民との連携に主眼を置き、事業を実施してまいります。事業の企画から地域行政と連携をとることで、事業に対する意見交換を行い、よりよい事業に繋がります。また、事業結果や事業に参加した住民の方々の意見を地域行政へと発信し、その情報を共有していきます。私たちと地域行政、住民の方々が、互に関わり合い、互いの考えに関心が高まれば、この地域を見直し、地域の未来を真剣に考える機会に繋がると考えます。また、その中で構築される信頼関係は、今後のこの地域のまちづくりにとって必要不可欠なものとなり、ひいてはこの地域の明るい未来に繋がると確信いたします。

また、当委員会のもう一つの担いである、台東国際青年商会との交流及び情報交換に関しては、諸先輩方が代々培ってこられた友好関係をもとに、交流できる機会を作り、相互の絆が更に深まる様努力いたします。



伊香賀 亮
オフィスイコウガ



江藤 晃輔
㈱エトウ時計店



小山 寛
㈱小山産業



狩野 喜彰
㈱かの住建



小林 隆一
(資)小林硝子店



小松 佳弘
㈱パーソナル・クラス・アックス



新 栞 健一
メットライフアフラック生命保険㈱



田邊 拓司
㈱サンクスライフ



野見山 勉
㈱グリュックス



福田 祐一
㈱福岡電気商会



藤田 光司
電王運輸㈱



三木 祐太
㈱三木

2013年広報渉外委員会制作

■ 委員長/山喜多洋志 ■ 副委員長/西川 耕司
■ 委員/赤坂 昌紀・岩本 達也・久保井英樹・重松 将貴・清水 幸浩・塚本 大・原中 茂雄・渡部 雅文
■ 担当理事/寺濱 剛史

2013年12月発行

(社)飯塚青年会議所

〒820-0017 福岡県飯塚市菰田西3丁目18-11 TEL 0948-23-0292 FAX 0948-24-3471
■ E-mail info@iizuka-jc.com ■ URL http://www.iizuka-jc.com/

※2014年1月より一般社団法人へ移行予定